



## 令和7年 第4回定例会 「代表質問」



「みらい川崎」は、市民生活の向上にむけ、川崎市議会での議会活動を通じて、市政改革に取り組む政治団体です。  
川崎市域に関わる課題をローカルの視点、市民生活の実態に即した視点にこだわりながら、「川崎主義」に徹した取り組みを目指しています。

今回は、令和7年第4回定例会での代表質問と、各議員の一般質問からピックアップした内容をお届けします。

令和7年10月に川崎市長選挙が行われ、現職の福田市長が4期目の当選を果たしました。3期目の福田市長は、特別市構想を掲げる全国政令市のリーダーとして活動し、また、令和8年度から10年間の市の基本計画である総合計画を策定していることから「継続が望ましい」として我々も応援しました。一方で、市議会は行政のチェック機能としての役割もあることから12月議会では、これまでの市長公約の達成状況を検証し、教育環境整備や不登校児童生徒の居場所づくり、ひきこもり支援、コミュニティ交通導入など実効性の乏しい事業も散見された事から次期に向けた課題を質すなど、これまでも是々非々の姿勢で市議会の論戦に臨んできました。市長選後初となった今定例会では、新たな公約等について市長へ今後の取組姿勢を質しました。

川崎市では、犯罪抑止と治安イメージの向上を図る事を目的に川崎駅周辺地区へ100台に上る「防犯カメラの戦略的整備」を進めてきました。私たちは、他の地域への拡充を求めてきた経緯があり、今後の計画を質した所、「効果が着実に表れてきている事から地域の発生状況を把握し、データ分析している県警と密接に連携しながら、今後、他地域への展開を図る」旨、約束されました。

また、児童が小学校始業前の時間を安心して過ごせる環境整備や保護者の子育てと仕事の両立を支援するための朝の居場所づくりは急務であり、課題認識を質した所、「一定数の児童が開門前や昇降口が開くまでの間、学校敷地内等で待機している状況があり、安全面や昨今の暑熱等による健康面からも課題がある。教職員の負担とならないよう地域の方のご協力も頂きながら、成長を支える仕組みづくりに取り組む」としました。

この他にも高等専門学校の設置、子育て世代の定住促進事業、全天候型の遊び場、保育士宿舍借り上げ支援事業等について質疑し、施策の方向性が示されました。今後も二元代表制に基づき、市長と市議会が「車の両輪」として、市民生活に根ざした政策提言とチェック機能を果たして参ります。



### 不登校児童生徒の居場所 「子ども夢パーク」について

川崎市子ども夢パーク内では、不登校児童生徒の居場所事業として「フリースペースえん」を開設していますが、不登校児童の増加に伴い、需要がさらに高まると予測しています。現在は常勤・非常勤合わせて17名の体制で、学習支援や各種講座などの居場所支援を行っていますが、専門性の向上やスタッフの労働環境・待遇改善が引き続きの課題となっています。

また、同施設で不登校児童生徒が過ごした場合、学校の出席扱いになるため、出欠や施設内での様子の記録等は不可欠ですが、「登録しても利用に至らない児童」の存在と、学校や教育委員会との連携について質したところ、その要因は多岐にわたることから、子どもの気持ちを最優先に考え、来所時の聞き取りなど個々の状況に寄り添った対応を重視しているとのこと。学校との連携については、施設の利用が学校の出席扱いとなるため、学校からの依頼に基づき毎月書面での報告の他、スタッフが日々の活動状況を記録・管理し、教員に実際の活動の様子を視察してもらうなどの情報共有を図っているそうです。今後は、指定管理者によるセルフモニタリングや市による実地調査、ヒアリングを継続し、川崎市の子どもの権利に関する条例の理念に基づき、子どもの権利を最優先に考えた施設運営が行われるよう、適切にモニタリングを実施していく方針を示しました。



### 学校施設の包括管理について

川崎市では、学校施設の修繕や点検を一括委託する包括管理を麻生区でモデル実施し、迅速化や教職員の負担軽減などの効果が確認されたことから、令和8年度より全市展開を予定しています。そこで、全市拡大にあたっては、効果の担保に向けサウンディング調査を通じて発注条件の具体化を進めており、事業者からはエリア分割を求める意見もあるものの効率性やコスト面の課題から全市一括を基本とし、共同体応募の容認や評価項目の工夫により市内事業者の参入機会確保を図るとしています。また、件数増加に対応するため、モデル事業の知見を活かしモニタリング体制の強化について関係局と協議し、適切な運営体制の構築を進めるとしていますが、我が会派は、学校施設包括管理における修繕対応の迅速化については、拠点配置を含めた発注条件の具体化が重要であり、麻生区モデルの効果が全市展開で損なわれないよう慎重な検討を求めました。

また、委託により管理が移行することで細部の把握が難しくなるため、モニタリング体制の強化が不可欠であり、教育委員会を中心に確実な体制構築を要望するとともに、本事業の推進には市内事業者の理解と協力が重要であることから、丁寧な説明や意見交換、相談窓口の整備を通じて、理解醸成と参画機会の確保に努めるよう求めました。

多摩川河川敷のトイレを、令和8年度から4年間で28棟整備する市の計画に対し、男女別・バリアフリー化・乳幼児用設備の付加など設備の更新だけでなく機能拡充についても指摘し質疑しました。

それに対し市長は、「新たに整備するトイレは、男女別やバリアフリーにも配慮した、誰もが使いやすいトイレとなるよう検討している」とし、「河川敷の更なる賑わいの創出や利用者の至便性の向上に向け、女性も利用しやすく、明るく快適なトイレを、導入効果の高いエリアから集中的に整備する」と答弁しました。

さらに、特に河川敷にはAEDの設置が進んでいないことから、トイレの整備に合わせ設置すべきと指摘したところ、「河川敷には様々な運動施設が設置されており、利用する多くの市民の安全に資するためにも重要と認識しているため、併せて検討する」とのことでした。

安心安全に、河川敷でのスポーツやレジャーが楽しめるよう、これからも注視していきます。

### 多摩川河川敷トイレの整備計画について 市民目線で要望！



麻生区

健康福祉委員会  
団長 **こばりか子**



**全天候型の遊び場の整備**

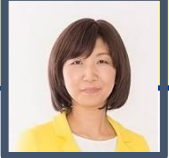
Q. 具体的なイメージと整備時期は。  
A. 子どもが思い切り体を動かせることに加え、落ち着いて楽しめる空間等の機能を検討していく。11年度までに一部の公園に設置し各区への拡大を目指している。

**期日前投票所の利便性向上**

Q. ショッピングモール等が併設されている団地内の集会所等への創設への見解は。  
A. 増設候補場所の調査や無線ネットワーク利用のためのセキュリティ課題の解消、持続可能な運営体制の検討など投票環境の向上につながる取組を鋭意進めていく。

麻生区

環境委員会  
副団長 **鈴木 朋子**



**新百合ヶ丘駅周辺のまちづくり**

Q. 今後まちづくりが具体化していくに従い、より一層区民の声を受け止めることが重要だが取組は。  
A. 8年度に実施予定の区民アンケートを活用するなど、区民の意見を聞きながら、魅力的なまちづくりに向け関係局と緊密に連携して取り組む。

**若者の居場所づくり**

Q. 当市の役割について市長の見解は。  
A. 主体性や創造力を発揮し社会で活躍していけるよう、子ども・若者が健やかに成長できる環境づくりを進めていきたい。

宮前区

文教委員会  
**おだ かつひさ**



**上下水道局補償問題**

Q. 事故の概要、上下水道局および被害者の事故責任の瑕疵（かし）割合は。  
A. 下水のいっ水事故について多大なご迷惑をかけた。管理瑕疵に伴う事故で被害に遭われた方の立場に立ち、影響を可能な限り小さくすることが何より大切と認識しておりしっかりと対応する。

**平和教育と修学旅行**

Q. 訪問先を被爆地の広島市、長崎市へと勧奨するため新年度に向けての取組は。  
A. 各学校が検討できるよう平和教育の授業実践を共有するなど取組を進めていく。

川崎区

健康福祉委員会副委員長  
**長谷川 ともかず**



**アゼリア地下街へのベンチ設置**

Q. 福祉の観点で踏まえ高齢者や障害者の方にも優しいベンチ設置について見解は。  
A. 川崎アゼリア株式会社が7年11月に新たに2カ所のベンチを設置した。今後も取組の状況把握に努め、市民が快適に利用できる空間の確保を同社に促していく。

**水道メーターボックスふたの流出防止**

Q. 大雨のたびに流されて困る方が大勢いる。個人ができる対策や流されたときの対処方法等を広く周知広報すべきでは。  
A. 問い合わせ先等を広報紙、ウェブサイト、SNSなどを通じて周知していく。

中原区

文教委員会  
**いど 清貴**



**当市の24時間子供SOS電話相談**

Q. 文部科学省のように無料で相談できるようにすべきだが見解と対応は。  
A. 経済的、心理的負担の軽減は相談へのハードルを下げる重要な課題と認識しており8年度から相談先を文部科学省のフリーダイヤルに統一したい。

**夜間の母子相談体制**

Q. 妊産婦等の大きな安心につながる切れ目ない相談体制の構築が必要では。  
A. 時間帯を問わず相談できる環境整備は重要であり、他都市の課題等を調査し効果的な相談体制を検討していきたい。

中原区

環境委員会  
副団長**おしもと よしじ**



**宮内・諏訪の両排水樋管（ひかん）の中長期対策**

Q. 10年確率降雨、時間雨量58ミリへの対応の先送りは容認できない。早い段階で複数の検討案を住民に示すべきでは。  
A. 関係町会への浸水対策についての説明などの機会に適宜、示していきたい。

**ホリスタの任意利用日**

Q. 効果検証と改善を目的にアンケート調査等が必要では。他都市では複数日設定されているが拡充について見解は。  
A. 年度末に保護者等へのアンケートを実施する予定で、意見把握や取得状況等の検証により必要な検討を行っていく。

高津区

まちづくり委員会  
副議長 **ほりぞえ 健**



**プラスチック製品の資源収集**

川崎市は1990年に「ごみ非常事態」を宣言し、減量化と資源化に取り組み、今では、市民一人当たりのごみ排出量は、全国の指定都市の中でも最少レベルです。4月からプラスチック製品の資源収集が高津区を含む全市に拡大。廃プラスチックは焼却ごみの約1／4を占めるため、さらに一段と減量が進むことが期待できます。「ごみの収集・処理」は市民生活を支える重要なインフラであり、高齢化の進行を踏まえたきめ細やかな対応、市民が安心して任せることのできる収集・処理体制を維持し発展させていくことは、ますます重要になると考えます。

高津区

総務委員会  
**いわくま ちひろ**

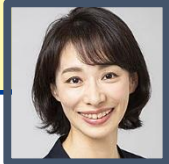


**等々力緑地の球技専用スタジアム**

Q. ホーム側サイドスタンドにサポーターの一体感醸成のためにも世界的な標準のワンスロープスタンドを採用すべきでは。  
A. 誰もが一体となり盛り上がる観戦環境の創出が重要であり、海外の先進事例等も参考に構造等の検討を進めている。  
**高津高等学校校舎の老朽化**  
Q. 19年に目標耐用年数を経過する予定で新校舎建設には基本構想から10年が必要だが、現在の検討状況と今後の方向性は。  
A. 市立高等学校改革等に向けた新たな計画で今後の在り方について検討していく。

中原区

まちづくり委員会  
**高橋 みさと**



**不登校支援のオンライン学習システム**

Q. どのICT教材が最適かアンケートを取り選定の参考にすべきでは。また効果的に活用される支援を実施すべきでは。  
A. 児童生徒や教職員等の声を適宜把握し、効果的な指導や的確な説明を行えるよう研修の充実を図るなど取組を進めていく。  
**双腕作業機「アスタコ」の活用**  
Q. 日本に1台の希少車両であり引退セレモニーや展示、消防局の広報宣伝に活用するため民間企業と連携する等の取組は。  
A. イベント等での活用を検討し、民間企業との連携等も情報収集していく。

幸区

総務委員会副委員長  
**しまりょうた**



**町内会・自治会活動応援補助金**

Q. けがの防止と負担軽減等から鉄パイプテントからワンタッチテントへの買い替えに特化した支援を提案するが見解は。  
A. 特定の備品に特化した枠組みの新設は難しいが町内会等の意見を参考に、より良い制度となるよう取り組んでいく。  
**多摩川の利用に関するアンケート調査**  
Q. 運動施設が不足しているとの回答が多い。利用団体等へ意見聴取すべき。  
A. 国と連携し河川空間の有効活用の取組を進め、プラン改定に当たり広く意見をいただけるよう意見聴取を検討していく。

川崎区

総務委員会  
副団長 **林 としお**



**町内会館のLED化の促進**

Q. 脱炭素社会実現に重要な取組であるため100万円未満の工事でも補助金の申請ができるよう制度等を見直すべきでは。  
A. 他都市の補助制度の確認や町内会等から意見を伺うなど調査研究していきたい。  
**河港水門周辺の高規格堤防化**

Q. 堤防を前倒しして高規格堤防化した際の上面利用を提案したが検討状況は。  
A. 7月と10月に国や学識経験者を含めた検討会議を開催した。7年度中に2回会議開催を予定しており検討結果をまとめ、その後、国の事業化に向け調整していく。

麻生区

まちづくり委員会  
**あまがさ 裕治**



**ポケパーク カントーの開業**

Q. 新百合ヶ丘駅が主要駅と言えるが主催企業との連携、公共空間を使った広告など対応できるよう検討すべきでは。  
A. PRブース出展など地元団体と調整して市民への周知等に取り組んだ。街並み景観の個性や魅力の向上が図れるよう多様な主体と連携し取組を進める。  
**新百合ヶ丘駅周辺の渋滞対策**

Q. 将来的な対応ができるまでの取組は。  
A. 交通が集中する万福寺王禅寺線の区画線の見直しや車道の一部拡幅等を道路管理者や交通管理者と連携し検討していく。

多摩区

健康福祉委員会  
**しまだ 和明**



**認知症地域支援推進員**

Q. 当市の認知症の実態把握と効果検証を図り推進員の拡充等が必要では。  
A. チームオレンジの立ち上げなどを行い各区の実態把握を進めている。推進員配置による効果等を検証していきたい。  
**若年性認知症支援コーディネーター**  
Q. 利用状況と効果は。  
A. 新規相談者数は増加し、異変を感じた就業中の御本人から併設医療機関を通じてコーディネーターへ円滑につながり早期診断と就労継続に至った事例等がある。

多摩区

文教委員会副委員長  
**田倉 俊輔**



**子ども・子育て施策**

Q. 市長は子育て世帯に選ばれ続けるためどのような取組に力を入れていくのか。  
A. これまで進めてきた切れ目のない子育て支援を一層充実させることで、地域の実情や社会環境の変化に対応した当市の子育て支援を総合的に進めていきたい。  
**登戸区画整理事業地内の交通問題**  
Q. 多数の交通問題が生じている現状は看過できない。優先道路を明らかにするための工夫も有効と考えるが対応は。  
A. 地元からの要望等も踏まえ交通管理者と連携し安全対策の検討を進めていく。

中原区

文教委員会  
**いど 清貴**



**当市の24時間子供SOS電話相談**

幸区

総務委員会副委員長  
**しまりょうた**



**町内会・自治会活動応援補助金**